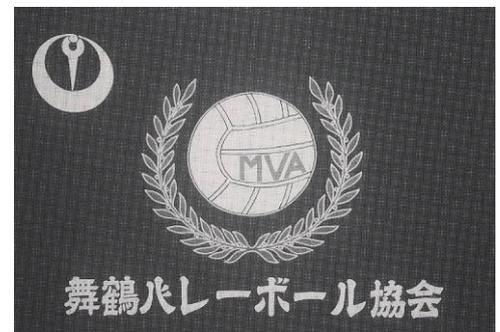


舞鶴バレーボール協会

設立 昭和21年4月1日（舞鶴排球会として発足）
（昭和25年 舞鶴バレーボール協会と改称）
舞鶴市スポーツ協会加盟 昭和21年5月11日
京都府バレーボール協会加盟 昭和21年5月1日



■10年間の歩み

舞鶴市スポーツ協会の発展、役員等の育成、さらには、本市のバレーボール競技力の強化と普及に大黒柱として生涯を注がれた安達渉会長、桜井義昭副会長、太田正道副会長のご逝去は大変悲しい出来事であったが、今日までの輝かしい実績を損なうことなく、役員等が一丸となって事業等に取り組んでいる。

このような中、小学生を対象としたジュニア教室は、事業形態が変更となったが、多くの参加者のもと継続して開催している。

また、平成24年から東舞鶴高校のご理解のもと、同校教諭の協会理事の協力を得て、中高生を対象としたバレーボール塾を開催し、バレーボールを常に楽しめる場を提供している。

さらに、市民に全国レベルの試合を提供するために、全国の9人制トップクラスが競う「桜田記念全日本9人制バレーボール実業団選抜男女優勝大会」（H24.11）や、日本プレミアリーグ入りをかけた「Vリーグチャレンジリーグ大会（女子）」（H27.11）が開催でき、併せてこれからの協会を担う若手役員の大きな実戦経験を養うことができた。



〈Vリーグチャレンジリーグ大会（H27.11）〉

■10年間の主な成績

小学生では、余内小バレーボールクラブ（H19年）、高野少女バレークラブ（H28年）が京都府を制覇して全日本小学生大会へ出場、一般では、

サンクラブ男子が全日本クラブカップ（H18・25年）及び全国社会人西ブロック大会（H27年）に出場、そして、日本板硝子が近畿実業団9人制大会で連覇を果たした。

また、男子選抜チームが京都府民総合体育大会（H26年）、チャンピオンフェスティバル（H24年）で京都府優勝するなど選手や関係者の努力と熱意が大きく実を結んだ。

さらに、余内小バレーボールクラブ出身の井上愛里沙選手が全日本女子のメンバーとして国際試合で活躍し、2020東京オリンピック代表選手入りへ向け歩み続けている。

■現在の主な年間主催・共催・主管事業

一般大会4回、ママさん（家庭婦人）大会2回、中学生大会3回、小学生大会7回、ソフトバレーボール大会4回、ジュニアバレーボール教室（小学生対象）、バレーボール塾（中・高校生対象）

■現状と今後の課題

少子化や高卒者等の市外転出、さらには人気アスリートの台頭やマスメディア等を活用した多種多様なスポーツの普及などにより、バレーボール競技人口の減少が進み、小学校、中学校、ママさん（家庭婦人）等それぞれの部門における大会の参加チーム数が減少し、また、生涯スポーツとして普及したソフトバレーボールも競技力の向上により、楽しむスポーツと勝敗を競うスポーツの二面性が表面化する等それぞれの大会運営における工夫が必要となってきた。

このような状況のもと、協会役員の人材育成を図るとともに協会ホームページの活用等により、バレーボールの発展と愛好者人口の増大に努め、今後とも誰もがより楽しく親しめる競技会の運営と競技力の向上に努めなければならないと考えている。